

令和7年度 稲作情報 No. 4 津南版

令和7年7月4日発行

十日町地域農業振興協議会

JA 魚沼、十日町市、津南町、NOSAI 新潟魚沼支所
十日町農業普及指導センター

穂肥診断を行い、生育状況に応じた穂肥を施用しましょう!

○新潟地方気象台の「3か月予報」では、7～9月の気温は平年より高くなる見込みです。

○異常高温に負けないよう、穂肥診断を行い、適期に適量の穂肥を施用しましょう!

1 出穂予想と穂肥時期

○穂肥の施用時期は、ほ場ごとに幼穂を確認し、出穂期前の日数を予想した上で判断しましょう。

○最新の生育状況や出穂期予想は、十日町普及センターHPの稲作生育速報に掲載しています。下記 URL または右の二次元コードからご確認ください。

稲作生育速報HP

(稲作生育速報は7月10日、17日、30日の夕方に発行予定)

URL : https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/tokamachi_nogyo/suito.html



表1 出穂期予想及び穂肥施用時期めやす(6月30日時点)

移植時期	品種	出穂期予想	穂肥施用時期のめやす	
			1回目(出穂期前の日数)	2回目(出穂期前の日数)
5月中旬植	五百万石	7月20日	6月30日(-20日)	7月8日(-12日)
	こがねもち	7月26日	7月8日(-18日)	7月16日(-10日)
	平坦地コシヒカリ (標高100~200m)	8月1日	7月14日(-18日)	7月22日(-10日)
	新之助	8月9日	7月19日(-21日)	7月28日(-12日)
5月下旬植	山間地コシヒカリ (標高400~500m)	8月6日	7月19日(-18日)	7月27日(-10日)

2 出穂期前日数の確認方法

○幼穂の長さを確認し、出穂期前の日数を予想しましょう。

○カッターなどで切って幼穂の長さを確認する方法の他、止葉の出方でも判断が可能です。

表2 幼穂長と出穂前日数

	出穂前 日数	24日	20日	18日	12日	10日
幼穂長 (cm)		0.1	0.4	1.0	4.0~ 6.0	8.0~ 10.0

幼穂形成期を確認

1回目穂肥施用

2回目穂肥施用

幼穂

葉耳間長0cm

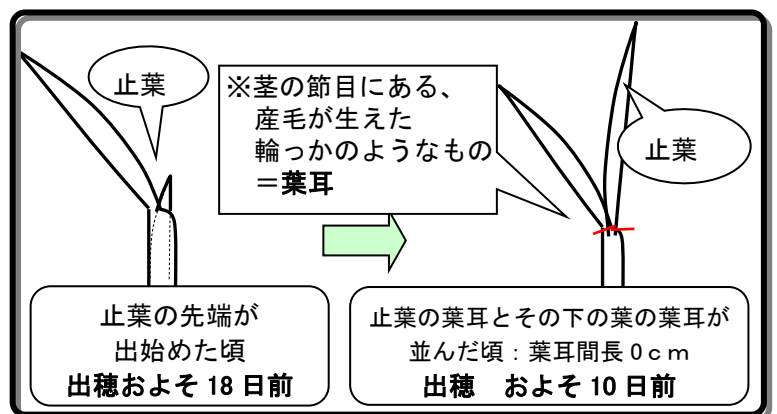


図1 止葉の出方による穂肥時期の診断方法

3 穂肥診断（コシヒカリ）

（１）１回目穂肥 ～適期適量の穂肥で倒伏を防止し、適正な籾数を確保しましょう！～

○１回目穂肥は、穂数や籾数の確保につながり収量向上に効果があります。

一方で、下位節間が伸長する時期のため、施肥量が多すぎると倒伏につながる恐れがあります。

○１回目穂肥施用時期は、**出穂期 18 日前を基本とし、草丈と葉色から穂肥量と施用時期を判断しましょう（図 2）**

○稲姿のめやすは、**草丈 80cm 以下、葉色（SPAD 値）33 以下**です。

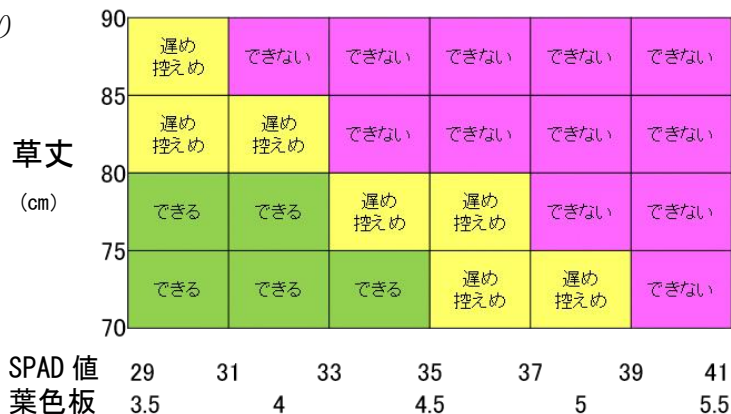


図 2 草丈と葉色における穂肥施用めやす

（２）２回目穂肥 ～後期栄養維持のため、確実に施用しましょう！～

○２回目穂肥は、葉色や後期栄養を維持することにより、登熟向上と品質低下防止の効果があります。出穂 10 日前に基準量（窒素成分 1.0～1.5kg/10a）を確実に施用しましょう。

2 回目穂肥時の葉色（SPAD 値）が 32 を下回っている場合は、今後も高温が予想されるため、窒素成分 2.0kg を上限に確実に施用しましょう。

○１回目穂肥を施用出来なかった場合においては、**2 回目穂肥は節間長の伸長に影響しないことから、確実に施用しましょう。**

表 3 コシヒカリの穂肥施用例（分施）

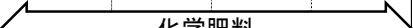
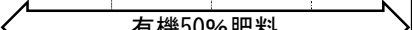
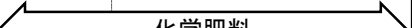
	出穂前日数 (日)	窒素成分量 (kg/10a)	肥料名（例）
1 回 目	18	0.7～1.2	越後の輝き有機 30 穂肥
	20		越後の輝き有機 50 穂肥
2 回 目	10	1.0～2.0	越後の輝き有機 30 穂肥
	12～10		越後の輝き有機 50 穂肥

※有機質の割合が多いと肥効が遅く出ます

（３）追加の穂肥（３回目穂肥・全量基肥肥料（基肥一発肥料）での追肥）

葉色が極端に低下した場合や２回目穂肥を施用しても葉色が淡い場合には、表 4 を参考に、追肥を検討しましょう。

表 4 分施体系及び一発体系における追加穂肥のめやす（水稻栽培指針（新潟県農林水産部）より）

分 施 体 系	施肥体系				判断時期と 葉色のめやす		施用時期 施用量のめやす	
	基肥	穂肥①	穂肥②	穂肥③				
	 化学肥料				出穂期3日前 葉色(SPAD値)が31以下		出穂期3日前 窒素成分1kg/10aが <u>上限</u>	
	 有機50%肥料				出穂期6日前 葉色(SPAD値)が33以下		〃	
	 有機50%肥料			有機 100% 肥料	標準的な 地力のほ場	出穂期6日前 葉色(SPAD値)が33以下	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a	
				低地力ほ場	幼穂形成期 葉色(SPAD値)が31未満	出穂期6～3日前 窒素成分2kg/10a		
一 発 体 系	施肥体系				判断時期 葉色のめやす		施用時期 施用量のめやす	
	基肥	追加穂肥						
	 化学肥料				出穂期の葉色が32～33を 下回ると予想される場合		出穂期10日前までに 追肥	
	有機50% 肥料	有機100%肥料			出穂期10日前頃 葉色(SPAD値)が30以下		出穂期10～5日前頃 窒素成分2kg/10a	

4 水管理（出穂期1か月前～登熟期）～飽水管理で土の水分を保ち品質向上！

(1) 出穂期1か月前

- ・ 出穂期1か月前には中干しを終了し、浅水の間断かん水で、
稲を水に慣らしてから徐々に飽水管理(図3)に移行します。

(2) 出穂期～登熟期

- ・ 出穂期は生育期間で最も水を必要とする時期です。
- ・ 出穂期から25日間（高温の場合30日間）は土が湿った状態を保ち（飽水管理）、根の活力を維持しましょう。

間断かん水

湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す。

飽水管理

水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する。

※フェーン現象等、高温と乾燥した強風が続く場合は、速やかにかん水し、乾燥による稲の障害を防ぐ。
※高温が続く場合には、可能な限りこまめに水の更新を行う。

出穂期後25日までこの管理を繰り返す

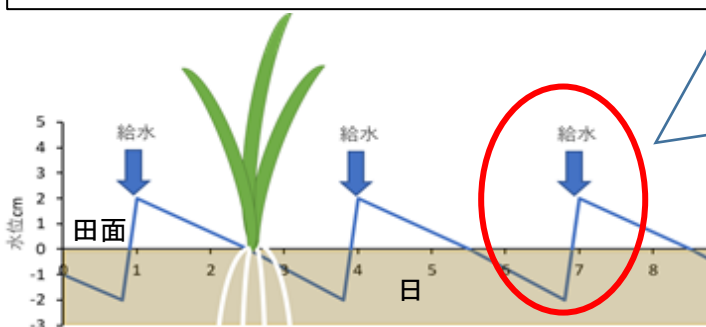
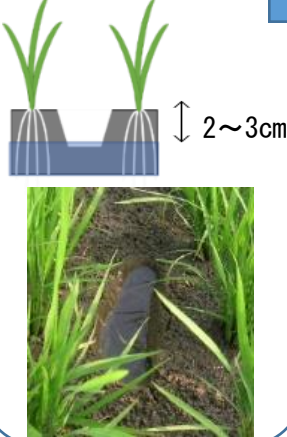


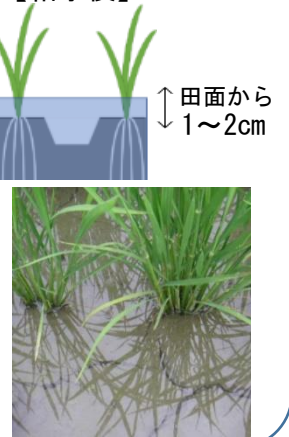
図3 飽水管理のイメージ

〔足跡や溝の底に水が残る程度まで水位が自然減少してから給水し、浅く湛水する〕

【給水前】



【給水後】



5 斑点米対策～草刈りと適期の薬剤散布をしましょう！

7月頃から発生するイネ科雑草

(1) 雑草管理

- 畦畔の草刈りは3週間程度の間隔で行い、カメムシ類が好むイネ科の雑草が穂をつけないようにしましょう。
- 水田内のヒエ、ホタルイは斑点米カメムシ類を誘引するため、**水田内除草も徹底**しましょう。



図3 メヒシバ

(2) 適期薬剤防除

- 出穂期（ほ場内の5割が出穂した日）を基準に薬剤の剤型に応じて散布時期を決定**しましょう。

表5 薬剤の散布適期（1回防除の場合）

粒剤	出穂期～出穂期7日後
粉・液剤	出穂期3日後頃（穂揃い期）～出穂期7日後

注 カメムシ類の種類や発生状況、使用する薬剤によっては2回目の防除が必要な場合があります。

水稻栽培に役立つ情報をLINEで簡単に受け取れます！

- 本年の生育・気象状況に応じた栽培管理
- 緊急情報（フェーン・異常高温等）
- 基本栽培技術
- 研修会の案内 等



二次元コード読み取り
→簡単に友だち登録

ID 検索: @219dutch

十日町農業普及指導センター(水稻情報)

JA 魚沼津南基幹営農センター(765-3123) 十日町農業普及指導センター(757-5516)

普及指導センターHP (https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/tokamachi_nogyo/suito.html)